執筆にあたり心掛けたこと
• 教壇からの目線ではなく、教壇を降りて、家族や友人に語り掛けるように執筆したこと。
• 経済の専門家ではなく、橋梁やコンクリート構造物といったインフラの材料・構造を専門とする立場から、インフラの性能に基づいた、単なる評論（危機をあおるだけ）にとどまらない解説を行っていること。
• 豊富なデータ（エビデンス）と具体的な実例をもとに、インフラの現状を的確に捉えるとともに、その将来像と解決策について論じていること。
• インフラメンテナンスを身近な医療に置き換えたアナロジーを用いることで、市民にも直感的かつ分かりやすく理解できるよう工夫していること。